

ホームユースでバラの消費拡大へ！滋賀県バラ生産者が展示イベント ～国産花きイノベーション推進事業を活用～

全国有数のバラの産地として知られる滋賀県では、9人のバラ生産農家による豊富な品種やホームユースとしての使い方の紹介などを通じて、バラの消費拡大や滋賀県産バラを紹介するイベントを開催しました。

Rose Rose Party 2017

- 日時／10月19日(木)～20日(金) 10:00～21:00
- 場所／ニ子玉川ライズ ガレリア
- 内容／滋賀県産バラの魅力を感じていただきバラの消費拡大や滋賀県のバラ生産者を一般の方へ紹介するための展示や花育ワークショップ、バラの香り体験、フォトコーナーなどを実施
- 主催／花の国づくり滋賀県協議会
- 協力／les mille feuilles de liberte (レミルフォイドゥリベルテ) ニ子玉川ライズ店 青山フラワーマーケットニ子玉川ライズ店、株式会社大田花き

バラ展示のコンセプトは「パーティー」で、ねらいは“ホームユース”

滋賀県の花生産者や業界関係者で構成する花の国づくり滋賀県協議会では、地元滋賀だけでなく京都や大阪、そして東京の消費地にてバラの消費拡大に向けた展示イベントを開催しています。2年目となる東京開催は「Rose Rose Party 2017～talk with rose Sihga rose collection250～」,そして「バラたちが歌い、語りかけてくるような心地よい空間」をテーマに、パーティーテーブルを華やかに彩るバラたちとして豊富な種類の展示が行われました。関係者によると、ターゲットは『ホームユース』で、ほとんどの展示がテーブルで飾れる短い丈のバラによるもので、気軽にバラに親しんでもらえるように工夫されたものでした。ちなみに、会場装飾や品種展示は、会場となったニ子玉川ライズに入る花店(les mille feuilles de liberteニ子玉川ライズ店)のスタッフが実際に現地を訪れ、生産者を1戸ずつ取材した上で作り上げたもので、テーブルの上には食器とともに9名の生産者それぞれをイメージした花器やメッセージなどを使いバラの装飾展示が行われていました。(写真)



今年は“パーティー”がコンセプト



生産者ごとに異なる雰囲気でもバラを装飾

豊富な品種が魅力！個性豊かな生産者も自らPR

滋賀県のバラ生産は全戸が個選個販に取り組んでおり、また“和ばら”など独自の品種育成やイングリッシュローズなど個性的な品種の栽培に取り組むなどオリジナルを含めて250品種以上ある豊富な品種数が魅力となっています。今回のイベントではその個性豊かな生産者が会場に出向き来場する方へ自ら生産への思いを伝える場にもなりました。そして多くの方がカメラで思い思いの写真を撮るなど会場は夜遅くまでにぎわいを見せていました。



生産者名と生産者を紹介するメッセージ

事業をきっかけに業界全体での盛り上げを期待

本イベントは国産花きイノベーション推進事業などを活用し、生産者と県、そして卸会社や花店がタッグを組んで開催されたものであり、県担当者からは「生産者が中心となって動くことが一番大事。国産花きイノベーション推進事業の活用は単なるきっかけであり、この後の取り組みが大事。」との話がありました。また、生産者からは「展示のように家でもできる簡単なバラの飾り方を知ってもらって、消費の裾野が広がればいい。また、他県産地や他の花店にもこの展示を見てもらい、イベントのやり方などを参考にして業界全体で盛り上げていきたい。」と業界全体での花の消費拡大を期待していました。生産者の方との会話の中で、“販売や消費拡大への取り組みは直接経営に結びつかなくともきっと将来につながる！”という熱い思いを感じました。